

新入試制度にむけて

いよいよ塾においての新年度が始まりました。中学生はこの3月から新学年となります。小6は中1、中1は中2、中2は中3として、学校に先がけ新たな一年のスタートです。

中3はもう卒塾生ということで平常の授業はなくなりましたが、入試はまだ終わっていません。3月10日からが本番です。よって、塾では入試の前日まで対策授業を行ってまいります。毎年のことですが、この最後の32時間の直前対策で子ども達はぐっと伸びます。ただ漠然とやらせるのではない、一人一人にしっかりと目標点を算出し、その日のうちに採点、返却し、必要な解説を行うという、密度の濃い対策だからこそ伸び、本番で力が発揮できるのだと思っています。今年も塾として出来る全てのことをさせてもらうつもりです。

さて、入試といえば、すでにご存じの方も多いかと思いますが、3年後、愛知県の公立高校入試が一部変更になります。具体的な変更内容は以下のとおりです。

- 1、各教科検査時間45分（現行よりも5分延長）
 - 2、配点は各教科22点の5教科110点満点（現行は各教科20点の100点満点）
 - 3、推薦入試では、面接に加え一般入試と同一日に学力検査を実施（現行は面接のみ）
 - 4、受験生の学力（知識、思考力、表現力）を今以上に測り選抜することを目的とする
- これだけを見ると、ただ単に問題量を増やし、それに伴い時間を延ばしたのかと思いがちですが、そんな単純なものではありません。逆なのです。この変更を検討してきた県教育委員会の有識者会議の報告によりますと、そもそもの発想が、“受験生の、知識を活用した思考力や表現力などを今まで以上に測るには時間の拡大が必要”よって、それに伴い“配点も高くなった”というもののようです。思考力や表現力を測るための問題を解かせるためには今のままでは時間が足りないというわけです。これは大変な変更です。特にトップ校を狙う生徒はいったいどれほどのレベルの問題を解かなければならないことになるのでしょうか。

3年後にむけて、塾としても準備をしていきます。ですが、それは今までのやり方を急に変えるということではなく、日々の授業を今以上にさらに充実させ、質の高いものにしていく努力をするところから始まります。ソチ五輪で感動させてもらったスポーツと同じです。高く跳ばせるためには、まずは足腰を鍛えねばなりません。次に、どう跳び出し、どう回転し、どう着地するか、イメージを持って見通しを立てる思考力と、さらに実際どう見せるかという表現力も身につけさせなくてはなりません。以前よりも高くなった壁への挑戦。

新入試制度は新中1（現小6）の高校入試からスタートです。